

プロジェクトリーダー:愛知工業大学 経営学部 羽田裕准教授

事業実績調査書

(1) プロジェクト名	高齢者，大学生，子どもが協働で行う地域資源の発掘・創出
(2) プロジェクトの成果（※そのような成果が得られたかについて具体的に記載）	今年度のプロジェクトは，新型コロナウイルスの影響で来年度に延期が決定している。
(3) プロジェクト実施内容（※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	<p>4月から6月において，新型コロナウイルスの影響による社会的情勢の変化に注意しながら，本プロジェクトの実行可能性を探った。社会的情勢と高齢者と子どもの「つながり」という本プロジェクトの特性を鑑み，今年度のプロジェクト実施は難しいと判断し，来年度への延期に関する変更承認申請書を提出した。</p> <p>6月からは，愛知工業大学経営学部経営戦略研究室のメンバー7名（3年生）中心に来年度の実施に向けて内容の精査を行った。具体的には高齢者と子どもが協働でどのような内容で活動を行えるのかについて，何度も議論を行い（週1回のペース），来年度の具体的な実現に向けて検討を行った。例えば，「今は昔」という形で，高齢者が所有する昔の写真をもとに現在地を特定していく内容にゲーム形式的な要素を取り込み，高齢者と子どもが協働で地域資源の再認識，再発掘していく企画等が候補として挙げられている。</p>
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	来年度，プロジェクトを進める上での課題は，次の2点である。まず今後，新型コロナウイルスの状況がどうなるのか先が見えない中で，「安全」，「安心」を担保した形で，どのようにして地域の高齢者と子どもを集めることができるのかを検討していく必要がある。次に，高齢者，子ども，大学生の協働が本プロジェクトの重要な点となるが，どのようにして新型コロナウイルス感染防止策を実施していくのかを検討していく必要がある。これらの課題に対して，本プロジェクトの関係者で連携しながら対応していく予定である。